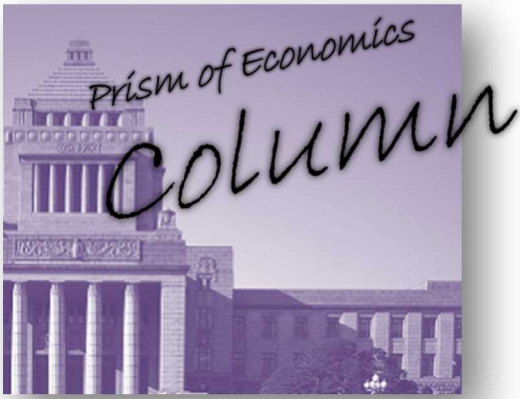


参議院常任委員会調査室・特別調査室

論題 [コラム]	行政事業レビューシートにおける執行率の謎① ～翌年度繰越額を予算額から控除!?～
著者 / 所属	桑原 誠 / 決算委員会調査室
雑誌名 / ISSN	経済のプリズム / 1882-062X
編集・発行	参議院事務局 企画調整室（調査情報担当室）
通号	232号
刊行日	2024-1-26
頁	23-24
URL	https://www.sangiin.go.jp/japanese/annai/chousa/keizai_prism/backnumber/r06pdf/202423202.pdf

※ 本文中の意見にわたる部分は、執筆者個人の見解です。

※ 本稿を転載する場合には、事前に参議院事務局企画調整室までご連絡ください（TEL 03-3581-3111（内線 75044） / 03-5521-7683（直通））。



翌年度繰越額を予算額から控除? 行政事業レビューシート における執行率の謎①

行政事業レビューは、毎年、国の全ての事業（約5,000事業）を網羅的に点検し、徹底的、継続的に無駄や改善すべき点がないかチェックする政府の取組である。その一環として、事業の執行状況や成果、資金の流れ、自己点検の内容等を記載した「行政事業レビューシート」（以下「レビューシート」という。）が各府省庁のウェブサイト上で公開されている。国の決算書には、予算科目（項、目）ごとの執行額しか記載されないため、事業ごとの執行額を確認できるレビューシートは、国会の決算審査等においても活用されるなど、行政活動や財政運営の透明性を高める非常に有意義な取組であると言える。

しかし、レビューシートに記載された事業予算の執行率には不自然な点があることから、2回に分けて本コラムで取り上げることとしたい。一つ目は、予算額から翌年度繰越額を控除することで執行率が高めに算出される仕組みになっている点である。図表1

図表1 レビューシートにおける予算額・執行額

		令和2年度	令和3年度	令和4年度
予算額・執行額 (単位:百万円) (インプット)	当初予算(A)	38,240	35,335	36,605
	補正予算(B)	17,509	17,477	17,520
	前年度から繰越し(C)	7,289	2,059	2,623
	翌年度へ繰越し(D)	▲ 2,059	▲ 2,623	▲ 7,946
	予備費等(E)	-	-	-
	計(F) =(A)+(B)+(C)+(D)+(E)	60,979	52,248	48,802
	執行額(G)	59,477	51,373	48,644
	執行率(%) =(G)/(F)	98%	98%	100%
	当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%) =(G)/[(A)+(B)]	107%	97%	90%

(出所) 内閣官房 令和5年度レビューシート「情報収集衛星の研究・開発」より抜粋

は、レビューシート
の予算額・執行額の
欄を抜粋したもの
であるが、赤枠のと
おり、「予算の状況」
という欄に「翌年度
へ繰越し」（=翌年
度繰越額）が負の数
値で記載されてい
る。すなわち、「当
初予算+補正予算
+前年度から繰越
し-翌年度へ繰越
し+予備費等」とい

う計算式によって、予算の合計を表す「計」の金額が算出され、それに対する執行額の割合を「執行率」としている。一方、国の予算の執行状況等を検査する機関である会計検査院は、執行率について「各年度の歳出予算現額に対する支出済歳出額の割合」¹と定義している。「歳出予算現額」とは、歳出予算額（当初予算、補正予算等）、前年度繰越額、予備費使用額等の金額を合計したもので、レビューシートの「当初予算+補正予算

¹ 会計検査院『在日米軍関係経費の執行状況等について』（平30.4）21頁

「前年度から繰越し+予備費等」に等しい。また、「支出済歳出額」は実際に支出した金額のことで、レビューシートの「執行額」に等しい。そこで、両者の執行率の違いを単純化して示したのが図表2である。いずれも予算額100億円、執行額80億円と仮定しているが、①の場合は分母から翌年度繰越額（20億円と仮定）を控除しているため、②より執行率が20ポイントも高くなっていることが分かる。

図表2 レビューシートと会計検査院の執行率の違い



レビューシートの作成要領では、「翌年度へ繰越し」欄には、翌年度に繰り越した金額を負の数値で記載する²としか書かれておらず、なぜこのような計算式を用いているのかは不明である。あえて推測すれば、「当年度では使用せず翌年度の予算に追加されるため」という理由が考えられる。しかし、翌年度への繰越しは、予算の執行過程において、災害等の発生により年度内での事業の完了が困難になったことを受けて行う手続で、「執行の結果」である。したがって、予算を執行した結果生じた翌年度繰越額を遡って予算額から控除するのは不自然と言わざるを得ない。国の決算書において、歳出予算現額の左側にその構成要素が、右側に翌年度繰越額を含む執行の結果が記載されていることから明らかであろう（図表3参照）。

図表3 国の決算書における予算と執行の関係

項 目	歳出予算現額の構成要素					合計	執行の結果		
	歳出予算額 (円)	前年度繰越額 (円)	予備費使用額 (円)	流用等増△減 (円)	予算決定後移 替増△減額(円)		歳出予算現額 (円)	支出済歳出額 (円)	翌年度繰越額 (円)
001 内閣本府共通費	25,708,518,000	1,008,000,054	0	0	0	26,716,518,054	24,236,974,944	29,143,000	2,450,400,110
95016-2111-02 職員基本給	6,231,258,000	0	0	0	0	6,231,258,000	6,168,592,085	0	62,665,915
95016-2111-03 職員諸手当	3,197,234,000	0	0	0	0	3,197,234,000	3,167,216,073	0	30,017,927

(出所) 「令和4年度各省各庁歳出決算報告書」120頁より抜粋

国の予算の執行状況を検証するに当たり、事業予算の執行率に関して複数の計算式が存在する状況はもちろん、レビューシートにおいて理由を示すことなく翌年度繰越額がある事業で予算の執行率が高めに算出される状況は適切とは言えない。ついては、政府として不自然な計算式に基づく執行率が必要な理由を示すか、レビューシートにおける執行率の計算式を修正するか、いずれかの対応が求められよう。

(決算委員会調査室 桑原誠 内線75345)

² 内閣官房行政改革推進本部事務局「行政事業レビューシート作成要領」<<https://www.gyokaku.go.jp/review/img/R05sakuseiyouryou.pdf>>3頁。なお、図表1のとおり、レビューシートには「当初予算+補正予算に対する執行額の割合」という欄もあるが、これも歳出予算現額に含まれる前年度繰越額や予備費等を控除した予算額に対する執行額の割合であり、通常の執行率とは異なる。